

第2回 構造物の生産性向上技術研究協議会(P協議会)資料

1. 建設分野へのIT活用について

分類	現状・課題	要望・提案
IT活用	発注・施工側ともに書類作成作業で忙しい。 ⇒IT活用により書類作成作業との重複作業が生じている。	
	ITツールを使いこなせない年齢層が多い。	
	そもそも建設分野へのIT活用は難しいのではないかと。	
	ペーパーレス化やタブレット化は十分普及しているとはいえない。 難しい。	

2. 合理的な設計について

分類	現状・課題	要望・提案
システム	民間をうまく活用できるような環境作り。 ⇒発注者の承認を得るのが難しい。	
	3K(汚い, きつい, 危険)のため若年者の入職が少ない。 ⇒外国人研修生採用の方向に進むのではないかと。	
	作業の平準化を進めるべきである。 ⇒多能工化している。	
設計方法 (性能設計と仕様設計)	建設業は一品生産なので性能設計が適しているが、より高度になってしまう。 ⇒仕様設計としてプレキャスト化が妥当では？	・仕様設計:サイトプレキャスト, 部材仕様の標準化, 埋設型枠

3. 施工フローにおける合理化について

分類	現状・課題	要望・提案
生コン生産・運搬	アジテータトラックの容量拡大 ⇒合理化と規制緩和が必要	・輪荷重をクリアすれば実現可能なのではないかと。
準備工(鉄筋, 型枠)	鉄筋結束の自動化が進みつつある。	・継ぎ手や定着の工夫が必要 ・溶接マシンの採用
打込み・締固め	締固め不要な高流動コンクリートの採用 ⇒中流動コンクリートへ	
	普通の生コンを出荷して、現場で混和剤を添加して現場に適したコンクリートにカスタムできるという選択肢があると良い。 ⇒現状では JIS 外製品になってしまう。	
	普通コンクリートの場合、締固めの省力化は難しい。	・バイブレータのメカ的な改良
	車両制限令があるため、海外に比べて日本のポンプ車は小型である。 ⇒規制や法律の壁をどのようにクリアするか。	・現場据付のディストリビューターの利用
均し作業・仕上げ	腰をかがめての重労働 ⇒騎乗式トロウェルの使用などかなり自動化が進んでいる。 ⇒専門職の特徴を理解することも重要	
養生	埋設型枠の採用	